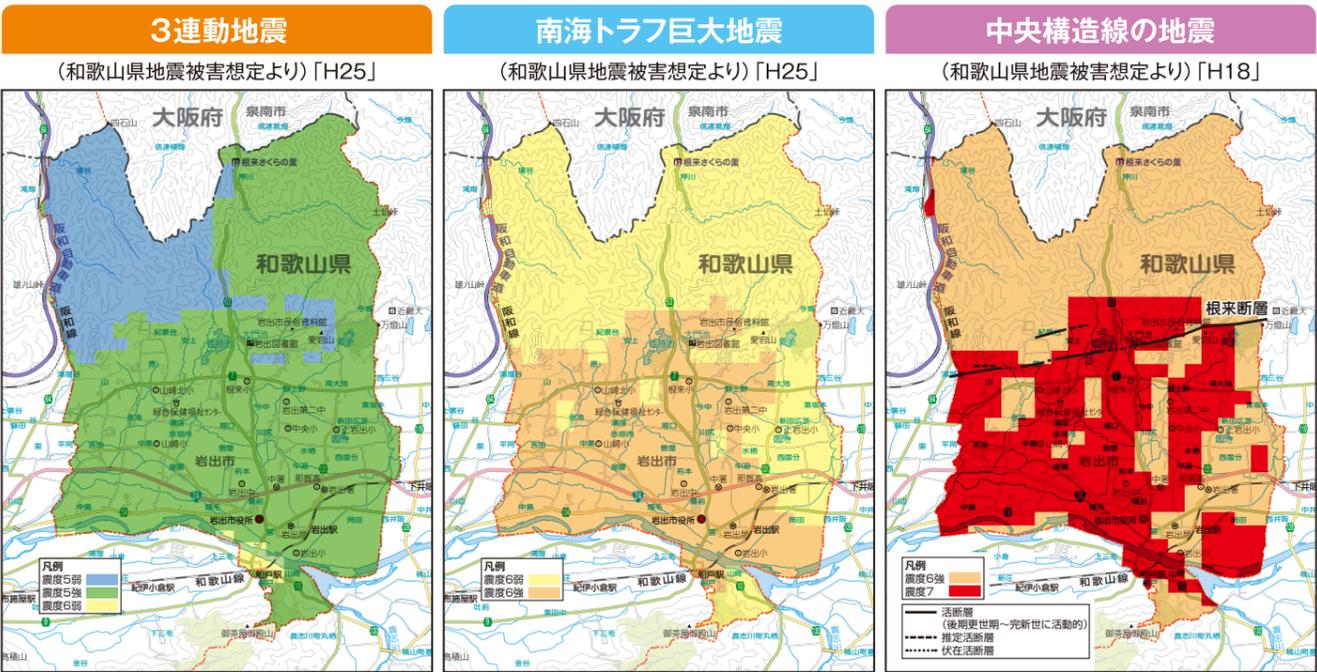




地震対策について

地震予想図



震度階級表

震度0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。
震度1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
震度2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。
震度3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。棚にある食器類が音を立てることがある。
震度4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。電線が大きく揺れる。
震度5弱	物につかまらなると感じる。電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。
震度5強	物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
震度6弱	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
震度7	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

家の中の安全対策

地震に備えて日頃から家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を作っておきましょう。

- 家具は倒れないよう固定されている
- 家電製品が落ちたり飛ばないように対策してある
- 家具の上に危険なものを置いていない
- ガラス付きの家具には、ガラス飛散防止フィルムをはっている
- 寝る場所の近くに、倒れそうな家具はない
- 万が一、家具が倒れても部屋の出口はふさがれない
- 避難経路にコワレモノを飾っていない

出典：気象庁ウェブサイトより編集

地震の時はどのように行動したらいいか？

地震の揺れを感じた場合、あるいは緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずにはまず身の安全を確保してください。そして、落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンのワンセグやネット通信機能など、様々な手段を使って正確な情報の把握に努めましょう。

<h3>家庭で屋内にいるとき</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。 ● あわてて外に飛び出さない。 ● 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない。 	<h3>人が大勢いる施設にいるとき (大規模店舗などの集客施設)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う。 ● 従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる。 ● 吊り下がっている照明などの下から退避する。 ● あわてて出口や階段に殺到しない。 	<h3>屋外にいるとき</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる。 ● ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる。 ● 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる。 	<h3>自動車運転中</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす。 ● ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する。
--	---	---	--

「南海トラフ地震臨時情報」と「南海トラフ地震関連解説情報」

「南海トラフ地震に関連する情報」は南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、「南海トラフ地震臨時情報」と「南海トラフ地震関連解説情報」があります。「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で発表します。

南海トラフ地震 臨時情報		発表条件
調査中	● 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合	▶ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ▶ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
巨大地震警戒	● 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合	
巨大地震注意	● 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ● 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ● ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合	
調査終了	● 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合	

南海トラフ地震 関連解説情報	発表条件
	▶ 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ▶ 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

出典：気象庁ウェブサイトより編集